

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスここいく員弁教室		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 13日		2026年 2月 12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	2026年 1月 13日		2026年 2月 12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	地域とつながる体験活動を通じた社会性の育成	地域資源(公園・公共施設・商業施設等)を活用し、実体験を通して社会ルールや対人スキルを学ぶ機会を意識的に設定している。活動後には振り返りの時間を設け、経験を学びに転換している。	活動ごとに「育てたい力(例:順番を守る・協力する等)」を明文化し、保護者へ共有することで、支援の意図をより明確にする。
2	一人ひとりの特性に応じた丁寧な個別支援	個別支援計画に基づき、特性や発達段階に応じた関わりを行っている。小さな成功体験を積み重ねる支援を重視している。	成功事例の職員間共有を強化し、支援の再現性を高める。記録の質を向上させ、成長の可視化を進める。
3	安心できる人間関係づくりと家庭との連携	日々の送迎時や連絡帳を活用し、家庭との情報共有を丁寧に行っている。子どもが安心して過ごせる雰囲気づくりを大切にしている。	定期的な保護者説明の機会を設け、活動の目的や成長の見通しをより具体的に伝える。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動の目的や支援意図の見える化が十分でない	行事や活動自体は充実しているが、育成目標や支援の狙いを明確に発信する機会が不足している。	活動ごとに目的を明示し、月次通信や掲示物で共有する。保護者会等で支援方針を説明する機会を設ける。
2	専門的支援(SST等)の体系化が不十分	日常支援の中で社会性支援は行っているが、体系的な整理や言語化が不足している。	SSTの年間計画を作成し、段階的支援モデルを整備する。職員研修を実施する。
3	支援成果の数値化・可視化の不足	成長は見られるが、評価指標として整理されていない。	評価項目を設定し、定期的に振り返りを実施する。個別支援計画との連動を強化する。